

平成29年度 前期学校評価報告

南浜中学校

「学校評価」は、学校が教育活動等について目標を設定し、その達成状況や取組の適切さ等について評価を行い、これを保護者・地域に公表することで理解と参画を得て「学校」「家庭」「地域」の連携協力による学校づくりを進めることを目的として行います。今回は前期の取組について中間評価をお知らせします。

1 学力について	
重点目標	基礎的・基本的な知識・技能を活用する思考力を伸ばすために、思考の場を計画的に設定するとともに、思考を焦点化する指導を積み重ねます。
手だて	① 各教科における「思考力」を明確にし、指導方法を工夫します。 ② 思考に必要なヒントや道筋、シンキングツール等を提示することにより、思考を焦点化した指導を行います。 ③ 各単元の指導計画の中に、生徒が思考できる質の高い課題や場を適切に位置づけます。 ④ 「思考力の育成」をテーマに、外部指導者を招いて一人1公開授業を実施します。 ⑤ 生徒同士の主体的、協同的学び合いを生かした指導を推進します。
評価項目 ・ 判断基準	ア 職員アンケートで「生徒の思考力を伸ばす授業を計画的に実践できた」の項目について、肯定的評価が80%以上となる。 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満
	前期評価 A 100%
	イ 「思考力の育成」をテーマに、外部講師を招いて公開授業を実施した職員が9名中7名以上 A 7名以上 B 5名以上 C 4名以下
	前期評価 C 4名。後期に予定している職員が多い。
	ウ 新潟市生活・学習意識調査において、「授業で自分の考えを進んで発表している」の項目で肯定的評価が60%以上、「普段の授業では友だち同士で話し合う活動を行っている」で90%以上となる。 A 2項目とも達成 B 1項目で達成 C 達成ならず
前期評価 C 56.5% と 85.2%	
後期に向けて	教師が一方向的に教えるのではなく、生徒自身が考え、話し合い、学び合って課題を解決していく授業を目指します。そのために「授業構想シート」を作成し、外部の指導者に指導していただきます。11月には、教育委員会指導主事の訪問もありますので、全職員が一層授業研究に取り組んでいきます。

2 自律性と社会性の育成について

重点目標	意見のちがいを超え、望ましい人間関係をつなぐ活動を設定し、人格的・社会的な自立を促します。		
手だて	<p>①生徒会「絆プロジェクト」をとおして、学校課題に気付き、考え、話し合い、課題解決に向けて計画を立てて実践するよう支援します。</p> <p>②先輩が後輩を育てる縦割り活動を推進します。</p> <p>③道徳と総合的な学習の時間をとおして、人権教育を推進します。</p> <p>④学級満足度調査や教育相談をとおし、生徒個々が感じている困難さに対して適切な支援を行います。</p>		
評価項目 ・ 判断基準	<p>ア 生徒会P D C Aチェックアンケート（全校生徒で互いに活動を評価し合うもの）で肯定的評価が80%以上である。</p> <p style="text-align: center;">A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満</p>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">前期評価 A</td> <td style="text-align: center;">80%</td> </tr> </table>	前期評価 A	80%
	前期評価 A	80%	
	<p>イ 縦割り活動を取り入れた活動を前・後期とも3回ずつ行い、「先輩や仲間と関わることをとおして学ぶことがあった」の項目で肯定的評価80%以上とする。</p> <p style="text-align: center;">A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満</p>		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">前期評価 A</td> <td style="text-align: center;">88%</td> </tr> </table>	前期評価 A	88%
	前期評価 A	88%	
	<p>ウ 人権教育を年間計画に従って実施する。</p> <p style="text-align: center;">A すべて実施 B 一部実施 C 未実施</p>		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">前期評価 A</td> <td style="text-align: center;">すべて実施</td> </tr> </table>	前期評価 A	すべて実施	
前期評価 A	すべて実施		
<p>エ 学級満足度で「満足群」が全学級で50%以上となる。</p> <p style="text-align: center;">A 全学級 B 2学級 C 0～1学級</p>			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 40%;">前期評価 A</td> <td style="text-align: center;">1年 88% 2年 80% 3年 81%</td> </tr> </table>	前期評価 A	1年 88% 2年 80% 3年 81%	
前期評価 A	1年 88% 2年 80% 3年 81%		
後期に向けて	<p>生徒同士のかかわりを大切にした活動により、学校、学級への所属間や活動に対する成就感を感じている生徒が多くいます。縦割り活動によって、自己有用感を感じる生徒が増加しています。</p> <p>引き続き、生徒一人一人の気持ちや意識に寄り添いながら、丁寧な指導に努めていきます。</p>		

3 支援教育について

重点目標	支援を要する生徒への基礎的環境整備と合理的配慮の提供を進めます。	
手だて	<p>①保護者、関係機関と協働した個別の教育支援計画を作成します。</p> <p>②配慮を要する生徒の実態やニーズを把握し、個別の支援計画に基づいた支援とその見直しや改善を行います。</p> <p>③コーディネーターと管理職を交え、事例をもとにした職員研修を実施します。</p>	
評価項目 ・ 判断基準	<p>ア 配慮を要する生徒について支援計画の作成率が90%以上となる。 A 90%以上 B 80%以上 C 80%未満</p>	
	前期評価 A	100%
	<p>イ 保護者や関係機関との連携を年間3回以上実施した生徒の割合を90%以上とする。 A 90%以上 B 80%以上 C 80%未満</p>	
	前期評価 A	100%
	<p>ウ 支援会議を年間3回以上開催する。 A 3回以上 B 2回 C 0～1回</p>	
	前期評価 B	2回
	<p>エ 事例をもとにした職員研修を年2回実施する。 A 2回以上 B 1回 C 未実施</p>	
前期評価 B	1回	
後期に向けて	<p>支援が必要な生徒・保護者と面談し、教育的ニーズを把握し、適切な合理的配慮を提供しています。</p> <p>支援にあたっては、サポートセンターや学校支援課SST、北区教育支援センターなどと密に連携し、指導助言を受けながら行っており、成果を上げていきます。後期も引き続き、一人一人を大切に支援を行っていきます。</p>	

